

学会 彙報

(一九九二年六月〜十月)

◇研究発表例会

六月二十四日(水)午後四時十分

於 一一一〇教室

「唯識思想における教説の意味」

博士後期課程三回生

菊地 哲氏

『法華経』安楽行品の一考察

専任講師 山野俊郎氏

研究発表終了後、第一研究室分室1において発表者を囲んで座談会を行なった。

◇研究発表例会

十月二十三日(金)午後四時十分

於 多目的ホール

『小品般若経』における菩薩と菩薩摩訶薩

博士後期課程三回生

竹橋 太氏

「華嚴における非有非無の深義」

教授 鍵主良敬氏

研究発表終了後、第一研究室分室1に

おいて発表者を囲んで座談会を行なった。

◇修士論文提出予定者中間発表会

十月二十八日(水)午後四時十分

於 一一一〇教室

今年度修士論文提出予定者のうち、六名の院生がそれぞれのテーマで発表を行ない、出席者によって活発な質疑応答がなされた。

編集 後記

『佛教学セミナー』創刊号が世に出て三十年近くになる。初めは啓蒙誌と研究誌との両面を備えた学術誌ということでスタートしたが、時が経つにつれて、どちらかといえば、研究誌的な傾向が強くなってきたように思われる。

そこで巻頭論文には教授の先生方に、日頃、関心を持っておられるテーマについて、わかりやすく語っていただくことになった。

今号には片野道雄教授に「弥勒請問章の三相」の問題を、ソオンカバの解釈を

手がかりに語っていただいた。

ところで近年、海外の研究者との国際的な学术交流の必要性が指摘されている。本学ではそのような趣旨で大学院の「特別セミナー」を実施しているが、今年の七月と来年(時期未定)との二回にわたって、ゴメツ博士をお招きすることになったので、その補佐を勤める兵藤一夫講師にゴメツ博士の仏教学を語っていただいた。

また福島光哉教授には、新入会員歓迎会の折に、御講演していただいたものを、テープより起こして、原稿にしていた。

その他、論文三篇と書評三篇、いずれも熱意のある力作揃いの原稿をいただき、予定よりやや遅れたものの、今号も無事出版できたことを感謝している。

(N・F)